



戸田市長 菅原 文仁氏

市長のメッセージ

戸田市は、日本唯一の静水コース「戸田ボートコース」や、年間100万人以上が訪れる「彩湖・道満グリーンパーク」などがある、水と緑豊かなまちです。平均年齢が県内一若く、子育て世代を中心に人口増加を続けており、市民の活気であふれています。

今後、戸田市の強みを伸ばし、さらに魅力あるまちにしていくために、「子育て・健康・防災」を重点テーマに、これまでの常識にとらわれず、新たなアイデアを積極的に取り入れ、実行していきます。また、市民一人ひとりの声にしっかりと耳を傾け、市民の命とくらしを守る取り組みを着実に進めていきます。

はじめに

戸田市は、埼玉県南東部、都心から20km圏に位置し、荒川を境に南は東京都と隣接している。市内には東京外環自動車道と首都高速、国道17号線、新大宮バイパスといった主要道路や、鉄道では新幹線とJR埼京線が通り、交通の要衝となっている。

江戸時代、市には荒川の渡船場「戸田の渡し」が置かれていた。市内を通る中山道において荒川は、江戸への玄関口にあたる場所だ。当時この渡船場には、人と物資を載せた船舶が多く行き交った。戸田河岸は大いに栄え、人口百万という大都市であった江戸への往来を支えるうえで、重要な役割を果たした。

現在、この場所には埼玉県と東京都を結ぶ戸田橋がかけられている。戸田橋のさらに上流には、幸魂大橋、笹目橋の二つの橋がかけられた。周辺には都心に向けた物流の倉庫や配送センターなどの集積がみられる。戸田市は絶え間なく、都心に向けた交通の要衝として人々の生活を支え続けてきた。



ボートの聖地 戸田漕艇場(戸田ボートコース)

☀️「ボートのまち」を起点としたまちづくり

戸田橋から荒川沿いを進むと、川の音の静寂の中から、オールが軋む音と一定の拍子の力強い掛け声が聞こえてくる。コックス（舵手）の声だ。市内にある漕艇場「戸田ボートコース」では、ボート競技^(注)の練習に励むアスリート達の姿を見ることができる。

(注)現在の正式競技名はローイングだが、本稿ではボートを使用する。

「戸田ボートコース」は1964年に開催された東京オリンピックのボート競技会場として使用され、ボートの聖地として全国的に知られている。コース沿いには実際に使用された聖火台が当時のままの姿で残されている。現在は大学・実業団チームの練習拠点や競技会場として活用され、コース周辺には各チームの艇庫や宿泊施設が複数ある。ボートコースに訪れたボート部の学生やボート競技者と、市内の町会・自治会の間には温かい交流があるようだ。

令和5年度に戸田市はボート団体の関係者で構成される「ボートのまちづくりコンソーシアム」を組織した。「ボートのまち 戸田」のイメージの定着を図り、地域資源を活かしたまちづくりを進めていく。

市内では「ボート体験教室」や「親子ボート教室」といったボート競技の体験イベントを実施するなど、市民が豊かに暮らせる、スポーツを交えた独自のまちづくりの実現に努めている。今後、市民とボート部の学生やボート競技者が関わる機会を市内全体でつくり、「ボートのまち」として更なる一体感を醸成し、市民の地域に対する愛着心の向上につなげていく。

戸田市概要

人口(2024年5月1日現在)	142,089人
世帯数(同上)	69,656世帯
平均年齢(2024年1月1日現在)	42.3歳
面積	18.19km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	497所
製造品出荷額等(同上)	2,305.5億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	755店
商品販売額(同上)	5,926.8億円
公共下水道普及率	95.6%
舗装率	99.0%

資料:「令和5年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR埼京線 戸田公園駅、戸田駅、北戸田駅
- 東京外環自動車道 戸田東ICから市役所まで約3km

☀️「こどもまんなか社会」の実現に向けて

戸田市は県内で一番「若いまち」だ。市民の平均年齢は28年連続で県内一低い。年少人口割合(総人口に占める14歳までの人口割合)の高さも県内上位だ。

市は子育て世帯に向けた支援を強く押し出している。令和5年6月には県内自治体で初となる「こどもまんなか応援サポーター宣言」を発信した。これは内閣府こども家庭庁が推進する「こどもまんなか社会」実現の趣旨に賛同し、自ら取り組む活動だ。

市は校内サポートルーム「ぱれっとルーム」や、教育支援センター「すてっぷ」を設置するなど、子ども達に多様な学び場を提供し、誰一人取り残されない教育の実現に着手した。また市内に18箇所ある全小中学校の教室にホワイトボードとプロジェクターを設置し、ICTをフル活用した令和の学びを進めている。子どもの安全確保に向けては、県内最多となる市内全域約400箇所に防犯カメラを設置し、全小中学校に警備員を配備した。地域の子供避難所110番を拡充するなど、子ども達を地域総出で見守っている。

本年1月より、「こどもの居場所ポータルサイト」を公開した。子ども食堂やプレイパーク等の「居場所」を分かりやすく掲載している。当サイトでは「たべる」「まなぶ」「あそぶ」に分類したサポートの提供場所が確認できる「居場所マップ」と、ほぼ毎日の頻度で提供されるイベントのカレンダーを見ることができる。市は当サイトのアドレスを付したキーホルダーを、市内の全小学生約8千人に配布した。

☀️ 未来に向けた子育て支援

戸田市は妊娠や出産前後の女性への支援も手厚い。令和4年7月より、助産師等が自宅に直接訪問をしてサポートを行う産後ケア事業を開始した。さらに本年4月には、医療機関や助産院での宿泊や日帰りメニューを追加し、産後ケア事業を拡大した。5月からは出産後1年未満の産婦に向けた「産後サポート教室」の開催や、今後も沐浴レッスンなど複数のサポートメニューから希望のメニューを選択・利用ができるクーポン券を配布するなど、産婦への支援は広がりを見せている。

市内には、心癒されるオアシスのような空間がある。「戸田ボートコース」付近の荒川堤防の上にある桜の並木「戸田桜づつみ」や、市内西部にある荒川河川敷の広大な市営公園「彩湖・道満グリーンパーク」である。過去、船の往来が盛んであった荒川沿いのこの一帯は、今では市民の憩いの場になっている。戸田市がもつ高い交通の利便性と、水や緑を身近に感じさせる住み良い環境が、移り住む若い世帯を集め、まちの明るい未来を感じさせている。(齋藤康生)



市内全小学生に配布されたキーホルダー(左:オモテ・右:ウラ)